

愛されて育つ

聖句「あなたがたは
神に愛されている子どもです」
—エフェソの信徒への手紙5章1節

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2017年8月22日
第132号



「永遠に続く 神様の愛に支えられて」

中瀬新生保育園
副園長 小高 千恵

二〇一八年四月より新しい「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「子ども園教育・保育要領」が適用されるにあたり、多くの研修会でも取り上げられています。汐見稔幸先生はある保育雑誌の中で評価と応答に関してこのように述べておられます。「評価は英語でassessment、相手の気持ちに寄り添いながら、その人が何をしたいと思っているのか、その人が今必要としているのは何なのかを察することを行います。(中略) 評価と関連している言葉が、保育では応答になります。この子は今何を

◆ 聖句 ◆

「あなたの重荷を主にゆだねよ
主はあなたを支えて下さる。
主は従うものを支え
とこしえに動揺しないように
計らって下さる。」

(詩編55編23節)

しようとしているのだろうか、本当は何をしてほしいと思っているのだろうかと察しながら、その思いに応じるように振る舞うことを応答すると言います。保育の本質はこの応答です。子どもが主人公とか子どもが主体というのは、こうして応答することによって保育があつてこそなのでした。」

日本の乳幼児保育全体が非認知能力を育てる大切さを意識するようになり、さらには主体的、対話的で、深い学び（アクティブラーニング）になつていくことを思うと、キリスト教保育をするようになるのかしらと感じてしまうほどです。それは、キリスト教保育が大切にしてきた見えな・い・も・の・に・目・を・注・ぐ・こ・と、非認知能力に目を注ぐことは同じだからなのでしょう。

多面的な神様の愛を語り尽くすことは出来ませんが、神様はいつも私達を案じて下さり、気に留めていて下さいます。さらに、私達の担いきれない重荷を引き受けて下さいます。そのような神様の愛に私達が応えるには、全てお任せし信頼していくことではないでしょうか。信頼していかないのに守って下さいと期待することではできません。0歳児のまなざしから感じる保育者への信頼感が思い



おこされます。子ども達は保育者を信頼し、応じてもらうことで安心して一歩踏み出していくのです。必ず受け止めてもらえると思つて頼つてくれるのです。

神様と保育者である私達の関係と、保育者と子ども達の関係は良く似ています。私達保育者の在り方が何にもまして重要になるのだと畏れも感じますが、動揺しないように計らって下さいと祈りつつ過ごしていきたいと思つています。全てを主にゆだねて

お泊まり保育



かえでのキャンプ

東洋英和女学院大学付属
かえで幼稚園

保育主任 永瀬真澄

本園では8月の末から九月の初めにかけて二つのキャンプを計画します。一つは軽井沢の追分にある学院の寮で行われるキャンプ。(二泊三日)もう一つは幼稚園で行うデイキャンプです。(こちらは宿泊ではありません)

年長組の保護者には説明会の時を持ち、必要があればよく話し合っその子どもが安心して参加できることを考えます。二泊のキャンプは創立当初から行っていますが、この十年ほどは子どもの発達や家庭の状況保護者の不安などを考えて必ずしも全員参加を前提にせず保護者の希望を受け止めることにしています。子どものことを考え、一泊やデイキャンプを前向きに選択することは、保護者にとつても自分の子どもを理解する時となります。

どちらのキャンプも保育者は心を込めて子どもにとって豊かな時となるように準備しますがここでは追分キャンプについて少し記します。

以前は箱根に行き、山登りをしていた時もありましたが、近年の追分キャンプではゆっくりと生活自体を楽しむことを大切にしています。グループのなかまやグループマザーとベッドメーカーキングをしたり、寮の部屋を歩き来して楽しんだりします。また三十分ほど歩いた野原に出かけ、虫探しやお弁当を食べるちよつとしたハイキングもします。天気が良ければ庭でキャンプファイヤーをします。ほとんどの子どもが初めての経験を印象深く心に刻みます。

開会、閉会礼拝、グループで祈る時に家族のことを思いながら「お互いが守られますように」と祈ります。保護者と離れての二泊三日は神さまのお守りを感じる大きな経験ともなります。

みんなで作る

お泊まり保育

ひかりの子幼稚園

教諭 新井優

私たちの園では年長組になると、その時の子どもたちの楽しんでいる遊びや興味のあることがテーマとなり、お泊まり保育に繋がっていきます。

昨年度の夏のある日、子どもたちに魔女から手紙が届き、「ひかりのお祭り」があることを知りました。そこで子どもたちはお祭りに参加するために何を持っていけばよいのかみんなで相談し、染め紙をしてランタンを作ることになりました。保育者が「お祭りでランタンを灯すなら昼間では見にくいかしら？」と問いかけると「おまつりは夜かな？光が見えるかもしれない」「夜に幼稚園に来るなら泊まつちやおう！」との声があがり幼稚園に泊まる事になりました。そこから、泊まるために必要なものを考えたり、朝ご飯は「幼稚園で採れた野菜を使ってピザトーストを作ろう！」と話したり、夜には「キャンプファイヤーをしよう」等、子どもたちが自分たちで考え意見を出し合いながらすすめていきました。

また、当日は事前に自分たちで決めた係に分かれてご飯係はみんなの

飯を作ったり、キャンプファイヤー係の子どもたちは準備をします。夜には子どもたちが作ったランタンに火を灯すと不思議な音が聞こえたり光が見え、魔女が来たかもしれないと感じるような出来事が起こり、朝起きると魔女からの贈り物のほうきが届いていました。このように、私たちの園では子どもの想像する力、自分たちで考え、創り出すことを大切に、子どもたちが泊まりたくなるようなお泊まり保育をしています。



恵みのなかで

相模翠ヶ丘幼稚園

教諭 淡路恵

年長組だけの特別な行事、お泊まり会。年長ひまわり組のお友達もお泊まり会の日を心待ちにしていました。毎年、一泊二日で幼稚園に泊まります。二日間の中で、子どもたち、先生たち皆で楽しめるプログラムを考えています。普段の保育とはまた違って、特別感に溢れた活動が沢山あります。

本物の食材を用意したお買い物ごっこ、流しそうめん、スイカ割り、水遊び、皆で体操遊び(中学・高校で体育の先生をされている卒園生のお母様が、跳び箱や縄跳びにつながる動きを楽しく教えてくださいました)、近くの公園でオリエンテーリング。オリエンテーリングでは園長先生とのじゃんけん大会が行われ、子どもも園長先生もじゃんけんに勝つために真剣そのもの。白熱のじゃんけん大会となりました。夜の集いも、ダンスやゲーム「猛獣狩り」で盛り上がりました。

年長組の子どもたちが頑張つて育てた夏の野菜(きゅうり、トマト、枝豆、オクラ)を皆で収穫して夜ご

飯に食べました。「本当はあまり野菜好きじゃないけれど、食べてみる」と言っていたMちゃん。皆と共にいる楽しさ、嬉しさを分かち合っていることで、Mちゃん自身に苦手な野菜を克服しようという不思議な力が湧いたようです。

礼拝は、一日目の開会礼拝、夜の礼拝、二日目の朝の礼拝、閉会礼拝と四回持たれました。お泊まり会では、礼拝のテーマも毎年違います。その年によって、大切にしたい思い、祈りを捧げます。今年の礼拝は、「友達の存在の大切さ」というテーマで、聖書の箇所を選びました。夜の礼拝では、「わたしはあかねこ」の絵本をプロジェクトで教会の外壁に映し出し、「みんなちがってみんないいんだよ」という思いを共に感じ合いました。

私は、初めての年長組の担任でしたが、この二日間の経験を通して、子どもたちの団結の力、絆の深さがより一層強くなったことに、感銘を受けました。

初めてお家の人と離れて友達や先生と共に過ごした時間を、楽しく充実して自分のものとした子どもたち。一人ひとり大きな自信へと繋がったことと思います。子どもたちにとっても、私にとっても、とても貴重な経験となったお泊まり会でした。

わくわく…どきどき

聖マルコ幼稚園

教諭 曾我優衣子

もうすぐ夏休み前の一大イベント、お泊り保育が近づいてきました。園庭では「一緒に眠ろうね!」と年長組の子ども達の会話が聞こえてきます。やっと自分達の番だ!と言っている子どもが多いんだとか。当園のお泊り保育は、皆で楽しく怪我無く過ごせるように皆で神さまにお祈りをする所から一日が始まります。そして、メインイベントとして一人一枚の切符を片手に電車に乗り、警察署や消防署見学に行ったり、海に行ったりして特別な体験をしてきます。

(当園は海まで徒歩十五分の所にあります)たくさん遊んで幼稚園に帰ると、おいしいカレーの香りが子ども達を出迎えてくれます。皆で夕食を食べ、お腹いっぱいになって外が夕やみに包まれてくる頃、園庭がキャンプファイヤー会場に大変身!大きな炎を囲んで司祭のギターに合わせ「もえろよもえろ」を歌ったり、ダンスやゲームをします。皆で楽しく遊んだ後は、思い出に花を添えるように綺麗な花火を観ます。そして、いよいよわくわく…どきどき…な時



間です。皆で布団を敷き、一日楽しく過ごせたことを感謝しお祈りを捧げて就寝です。約束していた友達と近くになつて嬉しそうな子や家族と離れて眠ることが不安そうな子…それぞれ表情が異なります。しかし、翌朝になると子ども達全員の表情が一回り大きく見えます。早朝の静けさの中で礼拝を捧げ、朝食を食べ、最後に二日間無事に過ごせたことを感謝し、お祈りをして降園となります。神さまのお守りのうち、夏の特別な経験が大きな自信となつて子ども達の新たな成長へ繋がっていくことを願っています。

子どもたちとともに

福音幼稚園 伊藤和

幼稚園の先生になり、二か月が経とうとしています。私は現在三歳児クラスを持たせていただいて、毎日子どもたちと過ごしています。個性豊かな子どもたちと過ごす毎日は、少しずつ成長を感じられたりして面白く感じます。

新任歓迎会に参加した当時は、一日を振り返ると子どもたちがふざけたり、身支度等できなかったりと、当たり前を否定的な部分として思い出され、良い部分を見ることが全然できていなかったと思います。自分に全く余裕がない状況でした。

歓迎会の中でお話を聞いた時に、「自分は子どもたちと喜び合っているのか」、「子どもたちの小さな喜びを見つけてあげられているのか」と、自分に問いかけてみると、全く真逆のことをしていると感じました。

自分に余裕が出てくるのは、きつと何年も先だと思いません。しかし、余裕がない中でも、肯定的な部分を見ることを意識しないと、するのでは、気持ちの上でも全然違うのではないのでしょうか。子どもと過ごしていく中で、小さな喜びを見つけ、共に喜び合えていくことができれば、自分も子どももきつともっと毎日が楽しくなるのだろうと感じます。

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ(五章十六節〜十八節)「いつでも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」という聖書の言葉を思い出しつつ、これからは子どもたちと一緒に自分も成長して、喜びを分かち合っていきたいと思えます。

役員会報告

書記 田名網仁

◆神奈川部会総会

総会は四月十八日(火)午後四時より高座教会礼拝堂にて行われ、二〇二六年度事業報告ならびに決算が承認され、二〇二七年度活動計画案ならびに予算が承認されました。

出席三十園・二校(参加者四五名)
委任状二十園・二校

◆役員会は四月四日(火)、五月十八日(木)、六月二十二日(木)、七月二十一日(金)に開催されました。主なことを報告いたします。

四月十八日(火)に開催された二〇二七年度総会議事録を承認しました。役員ならびに主任会担当者・プロジェクトチーム担当者は一部変更になりました。今夏に行われる、神奈川部会創立五十周年記念行事を計画し準備を進めていきます。

◆新任歓迎会

四月二十六日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にて行なわれました。礼拝では黒澤裕子先生(中瀬新生保育園園長より説教をいただき、礼拝の後、田崎由布先生(めぐみの幼稚園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。)
百三九名参加(内新任四十名)。

◆第一回講演会

六月七日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて、東洋英和女学院大学・深井智朗先生よりお話を伺い、キリスト教保育についてお話をいただきました。大変貴重で、有意義な時が与えられました。百四三名参加。

◆新任教師研修会

六月二十一日(水)、九月十三日(水)、二月三十一日(水)に本牧めぐみ幼稚園にて午後三時より開催。

◆部会創立五十周年記念夏期講習会

八月二十二日(火)横浜迎賓館にて開催されます。記念講演・片山知子先生(キリスト教保育連盟理事長)。記念コンサート・姫野徹オボー工奏者氏。

◆園長・設置者・主任研修会

今年度は、部会創立五十周年記念講演会・式典・祝賀会に、意識・予算を絞るため、園長・設置者・主任研修会は行われません。

◆第二回講演会

十一月八日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて行われます。

編集後記

暑い暑い夏となりました。8月も後半を迎え、2学期に向けた準備も祈りをもって進められている事でしょう。神奈川部会創立50周年を迎え、さらなる賛美をもって共に主をほめたたえていきたいですね。原稿をお寄せくださった全ての先生方に心から感謝申し上げます。



◇発行日 2017年8月22日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子
認定こども園 関東学院のびのびのば園/
浦尻友紀

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 浅野記念御濠端幼稚園